

子ども記者が行く!



空から舞い降りた夢のたね プロジェクト 祝祭!

●記者 野口親子記者
廣永親子記者
三上親子記者

10月10日、夜空から
一人の夢のたねが舞い
降りました。

恵庭公園陸上競技
場で9日に予定されてい
たプロジェクトは、強風
で翌日に順延。10日朝
から雨で開催が危ぶま
れましたが、予定時刻にな
つたたん、会場を覆って
いた雨雲にポツカリと穴



が開いたように晴れ、無事に
気球を上げることがで
きました。
夜空に浮かぶ大きな熱
気球から、光のシャワー
のように夢のたねが降り
注ぐ光景は幻想的で、参
加した人々に大きな感動
を届けました。

◆夢のたねプロジェクト とは?

世界各地で活躍して
いるアーティストの高橋
匡太(タカハシ キョウ
ウ)さんが発案した活動
で、たね型に切り抜いた
半透明の紙に自分の夢
を書き、LEDライトを
挟み込んだものを気球に
乗せて、夜の空から降ら
せます。降ってきた「た
ね」は参加者が持ち帰
ります。

植物の種が風に乗
り、見知らぬ大地でも力強く
芽吹くように誰かに誰か
の夢を届けようというの
が「夢のたね」プロジェ
クトです。

◆祝祭直後の、発
案者高橋さんの声
高橋さんは半月
もの間、恵庭に滞在
して、ワークショップ
をはじめ様々な
準備を進めました。
祝祭でも気球に乗

り込み、「たね」を降らせ
ていました。
「9日に気球を上げられ
なくて、その日来てくれ
た人には本当に申し訳な
く思っています。一万
人の人たちの一人ひとりの
大事な夢を預かっている
のでとてもプレッシャー
でした。でも今日、無事
に空から降らせることが
できてよかったです。



気球が
結構
あばれ
たけれ

どみんなからの「がんばれー!」って声援が聞
こえてきて、とてもうれ
しかった。みんなの声
はちゃんと届いていまし
た。本当にありがとう。」
◆準備期間は3カ月
恵庭青年会議所メ
ンバーが中心となり、
北海道ハイテク・アス
リートクラブの選手た
ちや恵庭中学校3年生の
協力を得て、7月から
準備を進めてきました。

市内の全小中学校で
きワークショップを開
き、一人の夢を預かっ
たあとは黙々と地道な作
業を続けてきました。
◆プロジェクト実行委員
代表の村本隆雄さんにお

話を伺いました。
Q 「夢のたね」プロジェ
クトのどんな所に惹かれ
たのでしょうか?
A 私たちの周りにはい
ろんな行事や伝統があり
ます。それらにただなん
となく参加するのではな
く、市民の方々にゲスト
として来てもらい、いろ
いろなプロセスを経て、
自分たちが主役となって
作り上げるといいう機会を
持つてもらいたいと思
いました。



もの夢
を集め
るなん
て想像
もでき
ません
でした。

Q 3カ月間の準備で、
苦労したことは?
A まったく初めてのこ
とばかりでノウハウがな
かったことが苦労といえ
ば苦労でした。一人
もの夢
を集め
るなん
て想像
もでき
ません
でした。

具体的なことでは、地道
な作業が大変でした。な
にせ、すべての作業が
一人分ですので、高橋
匡太さんに聞きながら口
ングランで毎日なにかし
ら作業をしていました。
一番大変だったのは、
9日に気球を上げら

れなかったこと。朝から
微妙な風で、夕方に期待
をしていたんですが、で
きなかつた。集まってい
ただいた方々には本当に
申し訳なかったです。
Q では嬉しかったこと
はなんでしょうか?
A 祝祭を無事に終える
ことができたこと。
気球がフラフラと
不安定で風にあおられた
時、協力の上士幌町パイ
ロットが「もう無理」と言
っていたんです。その時に
聞こえたお客様の「が
んばれ!」の声で、頑張
ってくれた。長らく気球の
イベントをしてきて、気
球にむかって「がんばれ
」と応援してくれたのは初
めと言っていました。



いろいろな
色がとて
もきれいで
みとれ
ちやつた
いろいろな
色がまぎ
つて下が
きれい
だった

◎伊藤さんファミリー

きれいだつた。福島さ
んから
たねをも
らつてう
れしかつ
た(柏小
4年さき
ちゃん)

もらったたねが僕と同
じ夢でうれしかったです
(お父さん)

◎加藤逸哉くん
気球から落
とすのがす
ごくきれい
だつた。

◎高田聖菜さん (恵北中3年)

きれいで
印象に残
りました。



◎川野理
菜さん(恵
北中3年)

楽しかったです。
5ページへつづく

近藤さんに 聞いてみよう



【今回の質問】
仕事楽しい人と
そうでない人がい
るのはなぜ?

【回答】
例えば、勉強が嫌い、
という人が君の友達に
いるだろう。ひよつと君
かもしれないね。だけ
ど、友達がいれば勉強
が得意な人もいます。
学校は楽しい所だろ
うか。



きつと、それと同じだ
と思うのだよ。仕事は
きびしくて辛いことの
方が多い。でも、周
りの人達と互いに助け
合えば、一つの仕事
を成し遂げる。みんな
が一緒にいる。つな
がって仕事を楽しん
でいる。会社に行くの
も楽しくなるんだと思
う。

仕事はとも、つら
けれど、仲間と一緒
に楽しむ、今もは
つくりと記憶に残
っています。(近藤春男)

【近藤さん】恵庭市在住の
エッセイストで、人生の
達人。